

5バリューアセット株式会社  
代表取締役 齊藤彰一

今年1月に「ひふみん」こと加藤一二三さんがお亡くなりになりました。

私は小さい頃から将棋が趣味でして、将棋棋士の本はよく読んでいます。その中でも私が最も印象深かったのは、米長邦雄さんの勝負哲学でした。米長さんは加藤さんより年下でしたが、14年前に亡くられています。米長・加藤のタイトル戦は、「変人と奇人の対決」などとされ、ファンを喜ばせました。

米長さんによれば、勝負というのは「勝利の女神」から、より好かれた人間が勝つと考えており、そしてその女神は、「笑い」と「謙虚さ」を好むとのことでした。

「謙虚さ」についてですが、米長哲学に欠かせないワードが「惜福（せきふく）」です。

米長さんが好んで書いた揮毫は「惜福」でした。これは幸田露伴の言葉のようですが、意味は、文字通りに福を惜しむこと、つまり「今ある幸運や恵を使い尽くさず、大切に味わい、将来のために残しておくこと」です。

「笑いの工夫」と「惜福の工夫」ができる人、それを日々怠らない人が女神に好かれる、とのことでした。昨年大谷翔平選手が1000億円位の年俸を10年後払いにしましたが、もしかしたらこのような感覚が誰も真似のできない「惜福の工夫」なのかもしれません。

米長さんは49歳で名人となりました。米長さんの勝負哲学は私が学生時代のものですが、当時将棋に熱を上げていた私には勝負術くらいにしか感じておりませんでした。ですが60歳近くになってこれまでを振り返りますと、このような考え方は人生や経営や教育、或いは資産運用などにも通底しているように私には思えます。

最近ではAIの時代ですので、資産運用に際して何かとAIに聞くお客さまやFA（ファイナンシャルアドバイザー）が多くなりましたが、時々でも米長さんのように、自分の心の女神に聞いてみるのもいいのかもしれません。

当社は「笑い」と「謙虚さ」を絶えないようにして、女神から好かれる会社にしていきたいと思っております。

今後とも5バリューアセットをよろしく願いたします。

2026年3月16日

本書の内容は、当社代表取締役 齊藤彰一が日頃感じたこと等を率直にお伝えさせていただくものです。当社が示す正式な評価、意見等を必ずしも反映していない場合がありますので、ご了承ください。